

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K11449

研究課題名(和文) グローカルを踏まえた指導的歯科衛生士の戦略的育成

研究課題名(英文) Strategic development of leading dental hygienist with a glocal spirit

研究代表者

伊賀 弘起 (IGA, Hiroki)

徳島大学・大学院医歯薬学研究部(歯学系)・教授

研究者番号：40175188

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的はフィンランドの歯科衛生士養成機関と連携してグローバルな視野と同時に地域視点で口腔保健を推進できる人材、すなわちグローバルな歯科衛生士を育成することにある。

そこで本学部と学術交流協定を締結しているメトロポリア応用科学大学の交換留学生と本学の学生が共同で両国の歯科衛生士学生を対象とした高齢者施設での口腔ケアに関するアンケート調査を行った。その結果フィンランドの学生のほうが知識修得に対してより強い自信を有していた。現在、高齢者施設職員を対象とした「口腔ケアに関するアンケート」については両校で協議を継続しており、本研究計画は今後の「交換留学生プログラム」のなかで完遂する予定である。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to train human resources who can promote oral health, from a global perspective and regional viewpoint, ie, glocal dental hygienists in collaboration with Metroplia University of Applied Sciences in Finland which has the Degree programme in Oral Hygiene.

The Exchange students from Metroplia University which have concluded an academic exchange agreement with Tokushima University Faculty of Dentistry and the students of Tokushima University conducted questionnaire survey on oral care at elderly facilities targeting dental hygienist students in both country jointly. As the one of the results, Finnish students had greater confidence in acquiring knowledge. The consultation on "Oral Care Questionnaire for elderly facility staff" are being continued between the both universities and this study is scheduled to be completed in the future "Exchange Student Program".

研究分野：口腔保健教育学

キーワード：歯科衛生士教育 グローカル 遠隔会議システム 口腔ケア支援システム

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、専門的な口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に有効であることが報告され (Yoneyama, T. et al: Lancet, 354, p515, 1999)、「歯科衛生士」の役割が以前にも増して重要視されている。徳島大学歯学部口腔保健学科は4年制の歯科衛生士養成機関として高度専門職業人を育成しており (米山, 伊賀: 歯科衛生士, 37, p61-p65, 2013) さらにフィンランドの歯科衛生士養成機関 (メトロポリア応用科学大学) と教育協定を締結し、グローバルな人材育成にも取り組んでいる^{1,2)}。

(2) 超高齢社会を迎えた本邦において健康長寿社会に貢献できる優れた歯科衛生士を育成すること、特に地域の高齢者施設において口腔ケアを牽引できる指導的歯科衛生士を育成することは時代の急務である。すなわち現代社会は「地球規模で物事を考えながら、その地域に根付いて活動する」グローバルな人材の育成を求めている。そこで前述の国際連携教育と口腔ケア支援活動を包括し、一連の学習方略として体系化することでグローバルを踏まえた指導的歯科衛生士を育成する戦略的教育プログラムが構築できると考え、本研究を着想した。

2. 研究の目的

優れた社会福祉制度を有するフィンランドの歯科衛生士養成機関と連携してグローバルな視野と同時に地域視点で口腔保健を推進できる人材、すなわちグローバルな指導的歯科衛生士を戦略的に育成することを目的とする。まず両校の学生が近隣の高齢者施設の口腔ケアの現状を調査し、その結果を交換留学生プログラムのなかで討議する。その後、両校の学生は、歯科衛生士学生あるいは高齢者施設職員を対象とした「口腔ケアに関するアンケート」を共同で作成する。またその結果を踏まえて学生独自の「高齢者施設における口腔ケア支援プログラム」を策定する。

以上の学習方略を体系的に実践することでグローバルな指導的歯科衛生士の戦略的育成プログラムが完成し、健康長寿社会の実現に貢献できる指導的歯科医療人が育成できる。

3. 研究の方法

(1) メトロポリア応用科学大学からの交換留学生が来日した際に、「交換留学生プログラム」のなかで「社会が求める理想的な歯科衛生士像」を想定し、討議する。

(2) その討議を踏まえて交換留学生と本学部学生が共同して歯科衛生士学生を対象とした「高齢者施設での口腔ケアに関するアンケート (英語, 日本語)」を作成する。両校で実施されたアンケート結果を統計学的に解析して新しい歯科衛生士教育カリキュラムの作成の材料とする。

(3) さらに交換留学生プログラムのなかで学生が両国で使用可能な「高齢者施設での口腔ケア支援プログラム」を策定する。

4. 研究成果

メトロポリア応用科学大学と本学の教員は以前より遠隔通信ソフトを用いた遠隔ビデオ会議を開催し、交換留学生プログラム、共同研究の打ち合わせ等を行っている。本研究において研究初年度の平成27年12月にはメトロポリア応用科学大学 (図1-a)、沖縄県西表島にある高齢者施設 (図1-b)、徳島大学の3か所を結んでインターネット会議を開催し、本研究の趣旨、計画、進め方等を協議した。さらにそれ以降も本研究期間内においては遠隔ビデオ会議を随時開始して研究の遂行に関わる事項を協議した (図2)。



図1-a メトロポリア応用科学大学の教員



図1-b 沖縄県西表島の高齢者施設職員



図2 遠隔ビデオ会議の様子

(1) 近年では専門的な口腔ケアの重要性が注目されているが、成熟した社会福祉システムを有する北欧においては歯科衛生士が行う業務として「口腔ケア」よりもむしろ口腔機能向上や食育も包括した「オーラルヘルスプロモーション: OHP」の方が広く用いら

れている。そこで本研究の初年度の遠隔ビデオ会議では本研究に対する協力要請を行うと共に、両校の学生には「現在の歯科衛生士に求められているOHP」について学習するよう指導することを確認した。

(2) 交換留学生プログラムのなかで双方の学生が「社会が求める理想的な歯科衛生士像」について合同討議を行った(図3)。



図3 合同討議の様子

(3) 両校の学生が交換留学生プログラムの中で共同して歯科衛生士学生を対象とした「高齢者施設での口腔ケアに関するアンケート(英語、日本語)」を作成した(図4)。さらにメトロポリア応用科学大学学生(1年~4年:91名)と本学(1年~4年:56名)を対象にアンケート調査を実施し、得られた結果を統計学的に解析した。本研究は徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:2721)。

Questionnaire about oral health care in health care facilities for the elderly

Age: _____ years
Academic year: _____

0.1 Do you have previous experience of oral health care in health care facilities for the elderly?

Yes No

0.2 What is your opinion about current state of oral health care in health care facilities for the elderly?
The situation is...

Good
Moderate
Bad
Very bad
I don't know

0.3 Could you work in a health care facility for the elderly as a dental hygienist?

Fully agree
Agree
Slightly disagree
Disagree
Not sure

0.4 Do you think that your knowledge of oral health care for the elderly is sufficient?

Fully agree
Agree
Slightly disagree
Disagree
Not sure

0.5 What is the major problem of oral health care in health care facilities for the elderly?
(Choose 1 option)

| | |
|---|--|
| Insufficient knowledge of nursing staff | Attitudes of patients or their relatives |
| Insufficient skills of nursing staff | Attitudes of nursing staff |
| Lack of professional oral health care | Insufficient equipments |
| Other...What? _____ | |

0.6 How could the situation be improved?

図4 高齢者施設での口腔ケアに関するアンケート(英語版)

その結果、「口腔ケアの現状」に対して、良い・ふつうと肯定的にとらえている学生は両大学とも約半数であり、また「高齢者施設で歯科衛生士として働くこと」に賛同する学生はメトロポリア応用科学大学で84.0%、本学では77.5%と両者に有意な差は認められな

かった。一方、「高齢者に対する口腔ケアの知識修得」に関する質問では、十分であると考えている学生はメトロポリア応用科学大学が39.5%であったのに対して本学では20.8%と両大学間で有意な差を認めた(カイ二乗検定, $p < 0.05$) (表1)。また自由記載の内容からもメトロポリア応用科学大学学生の口腔ケアに対する積極的な姿勢が見てとれた³⁾。これらの成果は平成29年7月に松本で開催された第36回日本歯科医学教育学会にて発表し(P1-20)、また平成29年8月にはメトロポリア応用科学大学を訪問して本研究成果をさらに詳細に解析したうえで「Journal of Oral Health and Biosciences」に投稿し、受理された。

表1

| Q.4 Do you think that your knowledge of oral health care for the elderly is sufficient? あなたの高齢者に対する口腔ケアの知識は十分だと思いますか? | | |
|--|--------------|------|
| | メトロポリア応用科学大学 | 徳島大学 |
| Fully agree + Agree | 32 | 11 |
| Slightly agree + Disagree | 49 | 42 |
| P-Value(カイ二乗検定, $p < 0.05$) | 0.02299 | |

(4) これまでの成果を踏まえて平成29年度の交換留学生プログラムでは「高齢者施設職員を対象とした口腔ケアに関するアンケートの作成と実施」を目指して両校の学生が合同討議を行った。なおこの討議に際しては事前に両校の学生がフィンランドと日本における高齢者施設の現状について情報収集を終えており、それを踏まえて両国独自の「学生による高齢者施設の口腔ケア支援プログラム(案)」を作成し、本討議の材料とした。しかしながら討議のなかで、今回のアンケートの対象となる高齢者施設職員について両国の職員の知識やスキル、あるいは施設のケアシステム等に大きな隔たりがあることが判明し、限られた時間内に共通のアンケートおよび口腔ケア支援プログラムを完成するには至らなかった。さらに「離島の高齢者施設の口腔ケア支援における学生の参画」については学生を同行するための経済的支援が獲得できなかったなどの理由から研究期間内での実施が困難な状況となった。なお本研究は継続して実施される「交換留学生プログラム」および「離島の高齢者施設における口腔保健業務支援」のなかで実施可能であり、最終的には完遂する予定である。

<引用文献>

- 1) Iga H and Ichikawa T: A Report of Academic Exchange Program between the University of Tokushima and Helsinki Metropolia University of Applied Sciences. Shikoku Den Res 25, 11-14 (2013)
- 2) Kakiuchi N, Minato A, Okazawa Y, Otsu

A, Fujiwara N, Hinode D and Iga H: A Report of Activity in a Short-Term Study Abroad to Helsinki Metropolia University. Shikoku Dent Res 27, 49-53 (2014)

3) Ishiguro I and Murakami F: The effect of shared attitudes behavior on self-effacement. Jpn Soc Social Psychol 23(2), 130-139 (2007)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

Hiroki IGA, Daisuke HINODE, Omar Marianito Maningo RODIS, Yasuhiko SHIRAYAMA, Tuula TOIVANEN-LABIAD, Erja NUUTINEN, Päivi HAARALA, Aija AHOKAS and Fumiaki KAWANO: International survey regarding oral health care in facilities for elderly in the dental hygiene student exchange program. Journal of Oral Health and Biosciences, 査読有、Vol.31, No.1, 2018, (in press)

〔学会発表〕(計 1 件)

伊賀 弘起、日野出 大輔、白山 靖彦、河野 文昭：歯科衛生士学生を対象に行った高齢者施設の口腔ケアに関する国際的な意識調査(P1-20)、第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会、平成 29 年 7 月 28～29 日、松本市中央会館(Mウイング文化センター) (長野県松本市)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

伊賀 弘起 (IGA, Hiroki)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部(歯学系)・教授
研究者番号：40175188

(2)研究分担者

白山 靖彦 (SHIRAYAMA, Yasuhiko)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部(歯学系)・教授
研究者番号：40434542

日野出 大輔 (HINODE, Daisuke)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部(歯学系)・教授
研究者番号：70189801

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()